

栽培漁業技術総合開発研究事業－I（トラフグ）

津本欣吾

目的

本県の主要な栽培漁業対象種であるトラフグについて、放流効果の把握と放流効果向上に係る知見の収集を目的とする。伊勢湾放流群の放流サイズの小型化及び熊野灘放流群の適地放流による資源添加効率向上によりトラフグ放流事業の効果的な推進を図る。

なお、結果の詳細は関連報文に報告したので、ここではその概略を記載する。

方法及び結果

1. 放流実績

- ・伊勢湾における適正放流サイズを明らかにするため、東海ブロック共同放流として、6月2日、9日及び30日にALC標識を装着したサイズの異なるトラフグ種苗を伊勢市有滝地先に合計214,000尾放流した。
- ・7月31日に栽培漁業資源回復等対策事業により、イラストマー標識（右胸鰭基部 緑）を装着したトラフグ種苗15,000尾を、伊勢市二見町地先に放流した。
- ・上記とは別に本年度県内に放流されたトラフグ種苗（無標識）は217,400尾であった。

2. 漁獲実態調査

- ・0歳魚を対象とする小型底曳網、1歳魚以上を対象とする延縄について漁獲統計調査を実施した。
- ・漁獲物調査とイラストマー標識魚の発見は、有滝・安乗市場を主体に実施した。
- ・まき網による春季のトラフグの混獲はみられなかった。まき網による産卵期のトラフグ親魚の漁獲は平成18年以降みられていない。
- ・小型底曳網の10月から3月までのトラフグ0歳魚の推定漁獲量は0.3トンで、前年（0.9トン）の41%と極めて低調な漁獲量となった。
- ・延縄漁獲量は72.5トンで、前年（45.0トン）の161%、近年では好漁となった前々年（71.3トン）と同程度の漁獲量となった。しかし、単価は漁期を通して過去最低水準で推移し、漁獲金額は2.2億円と前年（2.5億円）の86.9%にとどまった。

3. 放流効果調査

1) 小型底曳網

- ・イラストマー標識を指標とするH21年放流群の0歳

魚での回収率は、伊勢市放流群が0.17%、二見町地先放流群が0.30%、矢作川河口沖放流群が0.08%であった。一方、ALC標識を指標とするH21放流群の回収率は伊勢市34mm放流群が0.05%、伊勢市45mm放流群が0.10%、伊勢市75mm放流群が0.58%と推定された。

2) 延縄

- ・イラストマー標識を指標とした、県内延縄による過年度放流された各放流群の回収率は、1歳魚ではH20伊勢市放流群が1.79%、H20日間賀島放流群が1.18%、と推定された。
- ・安乗地区内の旅館6軒に依頼し、調理時に採集した耳石712サンプルを観察した結果、合計36サンプルからALC標識が確認された。ALCを指標とした回収率はH20伊勢市34mm流群が0.45%、H20伊勢市42mm流群が2.21%、H20伊勢市66mm流群が2.02%、H19伊勢市35mm流群が0.21%、H19伊勢市77mm流群が0.44%と推定された。

関連報文

平成21年度全国トラフグ栽培漁業技術開発検討会資料
大分県・愛媛県・山口県・佐賀県・三重県・静岡県・愛知県・石川県・秋田県・（独）水産総合研究センター屋島栽培漁業センター・能登島栽培漁業センター・南伊豆栽培漁業センター

平成21年度栽培漁業資源回復等対策事業報告書（太平洋海域トラフグ）三重県・愛知県・静岡県